

#### C-4 下北半島に生息するニホンザル(*Macaca fuscata*)の寄生虫症および感染症に関する疫学調査

浅川満彦, 渡辺洋子(酪農大・寄生虫病), 萩原克郎(酪農大・ウイルス), 村松康和(酪農大・共通感染症), 岡本実(酪農大・免疫), 後藤俊二(タイ王国チュラロンコン大・獣医) 所内対応者: 岡本宗裕

有害捕獲による死亡個体譲り渡しについては、青森県内市町村の行政機関との調整を3年前から行い、特に2013年の共同研究助成による業務で、現地に赴き、各市町村に具体的に了承され、現在までに約130個体分の消化管サンプルが送付されている(現在、処理中)。

サンプルは申請者代表が施設担当となる酪農学園大学大学院 獣医学研究科 野生動物医学センターWAMC に保存され、寄生蠕虫類の検査とウイルス・細菌材料の採集が行われている。貴助成研究の二年目となる2013年は、寄生蠕虫類肉眼と実体顕微鏡を用い採集することは継続し、これに加え種同定においては形態学および分子生物学的な解析を行い、下北半島内における寄生率の地域性の比較や宿主の年齢・性別による差異を検討予定である。

これまでに検索が終了した約40個体について判明した寄生蠕虫相の特色として、小腸上部より糞線虫類の *Strongyloides fulleborni*、盲腸および大頂上部に鞭虫類の *Trichuris trichiura*、小腸上部および下部より吸虫類の *Ogmocotyle ailuri* の3種が高率かつ多数虫個体が検出された。条虫類と線虫 *Streptopharagus* sp.(Spirurida:Spirocercidae)は見出されなかったが、ことに広範囲に分布すると目された後者が見つからないのは、特筆された。

上記のように、昨年は初年度ということで、材料の入手の調整と消化管の分析に時間と労力が費やされたため、公表論文となる実績は得られていない。しかし、2013年は、現在、手元にある未処理サンプル約130と今後送付予定の約100のものの処理が可能であると目論んでいる。この結果は2013年8月、日本野生動物医学会学術集会で報告される予定である(渡辺、筆頭)。また、貴学霊長研において遺伝子解析も実施する予定である。